高度技術利用研究会

会報誌

令和６年度版（No.44）

目　次

巻頭言 …… １
令和６年度 活動状況一覧 …… ４
情報提供・会員への支援など …… ７
令和６年度 収支決算書 …… ９
令和６年度　総会 …… １０
技術懇話会（併催：HCアカデミー） …… １１
活動報告会 …… １２
テーマ別研究会
　第１回　総務・管理部門による意見交換会 …… １５
　第２回　総務・管理部門による意見交換会 …… １６

関連活動 …… １８

DXセミナー「地方企業のためのDX戦略とRPA」 …… １９
岩手県北企業視察会 …… ２０
経営ビジネスセミナー（併催：アイピー倶楽部「経済講演会」） …… ２３
福島・宮城企業視察会 …… ２４
八戸工業高等専門学校　研究室めぐり …… ２８
DXセミナー「kintone×BIツールで業務革命！」 …… ２９
カーボンニュートラルに向けた先行地域視察会《苫小牧》 …… ３０
会員・委員一覧 …… ３２
編集後記 …… ３５

巻頭言

「人材の確保」

長野県飯田市出身の私が八戸に引っ越してから、あっという間に１１年が経過しました。学生時代とセイシンハイテック入社後に飯田～八戸を行き来していた時期を考慮すれば、人生の１/３程は八戸で過ごしているという計算になります。私が小学校の高学年になったころでしたが、青森県内にある大変お世話になっている企業では、研修のために数年間、青森県から飯田市に人を出していました。その人たちに「飯田は田舎だ」と言われても、井の中の蛙である私は、「そんなことない」「東北の方が田舎のはずだ」とバカにしていました。高校を卒業し、八戸に来ることになった時は、「すごい田舎に行くことになったもんだ」と思い、頭の中は果樹園が広がっている風景でいっぱいでした。（ちょっと失礼な話となりますが）遠く離れた長野県で小学校から高校までで得た知識は、「青森＝りんご」であり、飯田市内にもたくさんあった果樹園が、それ以上にたくさんあるイメージでした。八戸駅に到着してみると「（果樹園は見えないものの）やっぱり本当に田舎だ…駅前だけど何も無い」と感じたものでした。まだ東北新幹線の終点が盛岡のころの話です。お迎えに来てくれた車に乗り、産業道路から 45 号線を進み、階上に向かっていきます。「あれ？建物がいっぱいある。飯田より大きな街だ！」「どこを見ても果樹園なんてないじゃん」と、一気に印象が変わっていきます。「そういえば、八戸は漁業って小学校のころ習った…。何も知らず、調べもしないで勝手なイメージをしていて恥ずかしい」と思ったのが、私の八戸ライフの始まりでした…。それから時を重ね、２０１４年に八戸に移住することとなり、青森県民として生活をしています。

そろそろ本題に入りますが、八戸に移住してから「求人活動」という任務が加わりました。私が担当する前の数年は、「景気が悪く新卒を採用していない」という状況があり、さらにその数年前は、「（結果的に）八戸工科学院の卒業生しか採用しない」という状況だったため、近隣の工業系の学校を回っても「セイシンさん…名前は知っていますよ」という状態でした。

そもそも求人活動に関する知識が限りなく０に近い中で、とりあえず高校を回ってみようという状態でした。「７月になったら求人票を持って学校に行く」ということを聞き、とある工業系の高校へ行って聞いた事実に衝撃を受けました。

「今、来てもらっても、もう決まってしまったよ」

「毎年入れてくれるところが優先になっちゃうんだよね」

頭の中は「ん？どういうこと？？」しかありません。「先生が就職先を決めている？この求人活動自体が無意味なのか？」と思いつつ、「では来年はもう少し早く来ますね…」と学校を後にするしかありませんでした。

数年間は同じようなことの繰り返しでした。アポを取って学校へ行っても「希望する生徒がいたら紹介しますね」と言ってくれる程度。一方で「若者の県外流出を防ぐため、早めに求人活動を始めてください。県外企業は早くから活動しています」とメディアや会合で言われ続けました。「これ以上早くって無理じゃん。そもそも先生が決めてるんだったら、早く行ったところで意味ないし」と思っていました。実際、先生たちの反応も、そんなこちらの懸念を裏づけるかのようにあっさりしたものでした。直接生徒にアピールできると思い、合同就職説明会に参加しても、名前が売れている会社ばかりが人だかりになっている状況で、自社の説明を聞いてもらうことすらできません。

そんなこんなでモヤモヤしていましたが、今から４年前、仲の良い社長さん２名と食事をしながら「まずは我々の社名を知ってもらうことが重要だから、会社見学のツアーを協力してやってみない？」と話したところ、「やろう！」という話になりました。ネタができたため、学校訪問がしやすくなり、求人活動について真剣に打ち合わせを重ねたことにより、求人活動に対するモチベーションがかなり向上しました。それまでは十和田までしか範囲として考えていなかったのですが、下北地域から津軽地域まで範囲を広げ、さらには工業系以外の学校も対象に入れました。３社で活動することにより、学校の先生との対話時間も増え、様々なことが見えてきました。生徒が望んでいること、先生が望んでいることが少しずつわかってきたのです。「先生が就職先を決めている」と前述しましたが、そうしてもらわないと、社員の確保ができない状況にあるというのも現実です。あくまでも求人活動ではなく、会社名と業務内容

を知ってもらうことをコンセプトとしたツアーは、先生にも社名を認知していただくこととなり、少しずつではありますが、採用につながる成果が出ています。また、お互いの会社説明を聞くことにより、自社の説明も向上させることができるという利点もありました。とは言うものの、今後も活動内容のブラッシュアップは必須となります。学生（若者）の考え方は、日々変化していきます。メディアでは入手できない情報は、直接入手するしかありません。求人活動のルールがある中で、どうやって学生と接し、ニーズに応えていくかが大きな課題です。

ここ数年、最低賃金がどんどん上がっていますし、少子化の影響もあり、初任給もどんどん上がっています。中小企業は、人材確保が苦しい中、人件費の増加にも苦しめられる状況となっています。中小企業のことを心配してくれている風な国会議員の方も、話の最後には、最低賃金を時給１５００円にすると言っています。会社の存続のためには、人財は無くてはならないのですが、入り口の賃金のところでつまずいてしまいます。

人材不足に対応するには自動化・省人化を推進するしかありませんが、そこにも莫大な費用が掛かります。小さなことから変化させていくことに力を注ぎ、青森県のことをしっかり考えて生きていきます。

株式会社セイシンハイテック
取締役常務　金田　隆敏

令和6年度　活動状況一覧

行　事	活　動　内　容 ・併催や共催が記入されている活動は、会独自ではない会員に資する関連行事・活動 ・◎は独自活動 ・HC：（公財）八戸地域高度技術振興センターの略称
◎監査会 ◎第１回役員会	日　時：　6月11日（火） 場　所：　八戸インテリジェントプラザ
DXセミナー 地方企業のための ＤＸ戦略とＲＰＡ (共催)	日　時：　6月17日（月） 場　所：　八戸インテリジェントプラザ 講　師：　㈱デーリー東北新聞社 システム開発部 次長 十文字　孝太　氏 コクー㈱　　ＲＰＡ事業部　　守山　祥平　氏 参加者：　35名（会員企業：6社7名／委員所属機関：3機関5名） 主　催：　㈱デーリー東北新聞社 共　催：　HC、㈱八戸インテリジェントプラザ
岩手県北地域 企業視察会 (共催)	日　時：　7月2日（火） 視察先：　①久慈バイオマスエネルギー㈱（久慈市） ②岩手モリヤ㈱（久慈市） ③ケイセイ医科工業㈱東北事業所（洋野町） 参加者：　18名（会員企業：4社4名／委員所属機関：3機関4名） 共　催：　HC、アイピー倶楽部
◎総　会	日　時：　7月10日（水） 場　所：　八戸グランドホテル 議　事：　（１）令和5年度活動状況及び令和5年度収支決算、並びに会員・委員の状況について （２）令和6年度活動計画（案）及び令和6年度収支予算（案）について 特別講演：[講師]八戸工業高等学校　産業システム工学科 機械・医工学コース 准教授　井関　祐也　氏 [演題]「患者に優しいがん診断・治療装置の開発 ～脱・短命県を目指して～」 出 席 者：[会場出席者]36名 [会 員]34社（36名）／52社（委任状を含む） [会員・委員]53社・機関（57名）／77社・機関（委任状を含む） ※会員・委員数は当時　（）は１社・機関から複数名参加を含む人数 交 流 会：実施
◎会報誌発行	日　時：　7月22日（月） 令和5年度活動分発行
経営ビジネスセミナー (共催)	日　時：　9月13日（金） 場　所：　八戸プラザホテル 講　師：　浜松倉庫㈱　代表取締役社長　中山　彰人　氏 演　題：　「持続可能な企業として存在し続けるためにへ～現場課題を踏まえたＤＸの取組～」 参加者：　37名（会員：11社14名／委員所属機関：6機関10名） 交流会：　実施 共　催：　HC 併　催：　アイピー倶楽部「経済講演会」
◎テーマ別研究会 プチ語る会	日　時：　9月20日（金） 場　所：　八戸インテリジェントプラザ 参加者：　4名（会員企業：3社3名／委員所属機関：1機関1名）

福島・宮城 企業視察会 (共催)	日　時：　10月3日（木）～4日（金） 視察先：　①そうまＩＨＩグリーンエネルギーセンター（福島県相馬市） ②浅野撚糸㈱フタバスーパーゼロミル（福島県双葉町） ③アイリスオーヤマ㈱角田Ｉ.Ｔ.Ｐ/角田工場（宮城県角田市） ④㈱宮城マイクロブルワリー　宮城ゆりあげ麦酒醸造所（宮城県名取市） 参加者：　7名（会員企業3社3名／委員所属機関：1機関1名） 共　催：　HC、アイピー倶楽部
◎テーマ別研究会 第1回総務・管理部門 による意見交換会	日　時：　11月6日（水） 場　所：　八戸インテリジェントプラザ 内　容：　①自己紹介・自社紹介・所属部署の仕事の概要、各参加者のお立場、仕事の内容と範囲 ②仕事をする上で、日ごろ感じていること、苦労していること、など ③総務・管理部門、および他部門や会社全体の問題点など 参加者：　14名（会員企業：9社13名／委員所属機関：1機関1名）
研究室めぐり (共催)	日　時：　12月2日（月） 場　所：　八戸工業高等専門学校 内　容：　（１）学校説明・産業システム工学科各コースの紹介 （２）研究室訪問 ①機械・医工学コース（説明者：井関 祐也　准教授） タイトル：がん治療装置に関する研究紹介 ②電気情報工学コース（説明者：秋田敏宏　准教授） タイトル：組込みシステムに関する研究紹介 ③マテリアル・バイオ工学コース（説明者：山本歩　准教授） タイトル：「食」を通じた地域の魅力探究 ④環境都市・建築デザインコース（説明者：李 善太　准教授） タイトル：薬剤耐性菌に関する研究紹介 参加者：　26名（会員企業：3社3名／委員所属機関：1機関1名） 共　催：　HC
DXセミナー kintone×BIツールで 業務革命！ (共催)	日　時：　12月4日（水） 場　所：　八戸インテリジェントプラザ 内　容：　＜第１部＞ 【講　師】㈱デーリー東北新聞社㈱ システム開発部 次長 十文字 孝太 氏 【テーマ】kintoneハンズオンセミナー ＜第２部＞ 【講　師】八戸東和薬品㈱　CIO　田中　洋輔　氏 【テーマ】BIツールで学ぶデータ活用術 参加者：　15名（会員企業：5社7名） 主　催：　㈱デーリー東北新聞社 共　催：　HC、㈱八戸インテリジェントプラザ
CNに向けた先行地域 視察会《苫小牧》 (共催)	日　時：　12月19日（木）～20日（金） 視察先：　①苫小牧市及び苫小牧港管理組合との意見交換 ②CCS実証実験センター（苫小牧市） ③北海道電力苫東厚真発電所（水素製造装置）（厚真町） 参加者：　27名（会員企業3社6名／委員所属機関：1機関1名）※共催者含む 共　催：　HC、八戸市、八戸地域新ゼロエミッション連絡協議会

技術懇話会 (併催)	日　時：　令和7年1月28日（火） テーマ：　次世代型3D CAD・CAM・CAE・PCBが１つのソフトウェアに統合された Autodesk Fusionを体験 場　所：　八戸インテリジェントプラザ 内　容：　＜講演＞ 【講師】オートデスク㈱　日本地域営業統括 設計・製造営業本部 アカウントマネージャー　浜田　忠明　氏 【内容】CADの技術の今日までの背景と現況 Fusionの概要と特徴、並びに従来のCADとの違いや事例を交えた導入メリット ＜ハンズオンセミナー（体験セミナー）＞ 【講師】製造開発＆製造ソリューション部 Fusionテクニカルセールススペシャリスト　関屋　多門　氏 参加者：　12名（会員企業：3社5名／委員所属機関：2機関2名） 主　催：　HC 共　催：　(地独)青森県産業技術センター八戸工業研究所協議会 協　力：　青森県航空宇宙産業研究会 後　援：　精密工学会東北支部 併　催：　HCアカデミー
◎テーマ別研究会 第２回総務・管理部門 による意見交換会	日　時：　令和7年2月19日（水） 場　所：　八戸インテリジェントプラザ 内　容：　①人材不足・採用・育成について ②事務業務の生産性とモチベーションについて ③健康とヘルスケアについて 参加者：　10名（会員企業：7社9名／委員所属機関：1機関1名）
◎第2回役員会	日　時：　令和7年2月21日（金） 場　所：　八戸インテリジェントプラザ
◎活動報告会	日　時：　令和7年3月12日（水） 場　所：　八戸プラザホテル 議　事：　活動報告 特別講演：【講師】株式会社 From　Zero　代表取締役　矢立　広美　氏 【演題】創業から次の一歩へ：新たな基盤確立へ自動車部品市場の新規参入 【講師】株式会社 ミナミ　八戸工場　専務取締役　松下　武志　氏 【演題】自社完結可能な社会課題解決ビジネスへの参入 参加者：　33名（会員：15社22名／委員所属機関：7機関11名） 交流会：　実施

情報提供・会員への各種支援など

<table>
<tr><td>情報提供</td><td>メールマガジンとして８６件の情報提供を行った。
【提供内容】
補助金・助成金を含む施策、展示会・商談会、講演会、セミナー、視察会など各種イベント、トピックなど
【情 報 元】
（独）中小企業整備基盤機構、東北経済産業局、中小企業庁、環境省、厚生労働省、青森県、八戸市、（公財）２１あおもり産業総合支援センター、（地独）青森県産業技術センター、㈱日本経済新聞社、㈱日刊工業新聞、㈱日経 BP、八戸商工会議所、ポリテクセンター青森、東京ビッグサイトなど（順不同）</td></tr>
<tr><td>各種サポート</td><td>◆セミナー受講料支援
＜内容＞
・生産性向上に資するセミナー　・設備保全・安全衛生に関するセミナー
・SDGs・脱炭素・カーボンニュートラルに関するセミナー
・DX に関するセミナー（いずれも Web 参加含む）
における受講料を１社あたり上限 20,000 円補助（上限の範囲において複数回利用可）
<table><tr><th>利用会員</th><th>講座内容</th><th>ｻﾎﾟｰﾄ金額</th></tr><tr><td>エプソンアトミックス株式会社</td><td>産業用ロボット</td><td>20,000 円</td></tr><tr><td>株式会社セイシンハイテック</td><td>安全特別教育</td><td>20,000 円</td></tr><tr><td>株式会社高橋製作所</td><td>事業場内ﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ
推進担当者養成研修</td><td>20,000 円</td></tr><tr><td>アンデス電気株式会社</td><td>化学物質管理者講習</td><td>15,400 円</td></tr></table>合計 75,400 円
◆販路開拓支援
＜内容＞
・展示会への出展、商談会への参加（Web 開催含む）における出展料、出展内容に係る費用を１社あたり上限 50,000 円補助（１回のみ）
<table><tr><th>利用会員</th><th>展示会等</th><th>用途</th><th>ｻﾎﾟｰﾄ金額</th></tr><tr><td>株式会社
高橋製作所</td><td>青森・秋田・
岩手・北海道
合同商談会
2024</td><td>担当社員旅費</td><td>50,000 円</td></tr><tr><td>アンデス電気
株式会社</td><td>テクノルフェア
2024</td><td>参加費（出展者）</td><td>38,500 円</td></tr></table>合計 88,500 円</td></tr>
</table>

各種サポート （つづき）	**◆プロジェクト実施支援** ＜内容＞ ・生産性向上、脱炭素化、新事業創出・新商品・新製品・新技術開発（または改良）、生産体制の革新・改善およびこれらに関連するプロジェクトにおける費用を１社あたり上限 100,000 円補助（１回のみ） ＜利用状況＞なし ３つの支援額合計：163,900 円
個別支援	ＨＣが令和５年度に実施した「八戸地域企業様に対するアンケート」について、利用研会員も含まれていることから、回答結果に応じて複数社に対しサポートを行っている。

高度技術利用研究会
令和６年度収支決算書
（令和６年４月１日～令和７年３月３１日）

収入の部　　（単位：円）

項　　目	予　算	決　算	備　　考
前期繰越金	954,171	954,171	
会 費 収 入	1,020,000	1,020,000	
雑　収　入	220	567	普通預金利息
負担金収入	0	0	
合　　計	1,974,391	1,974,738	

支出の部　　（単位：円）

項　　目	予　　算	決　算	備　　考
視　察　費	190,000	137,633	岩手県北、福島・宮城企業視察会負担金
通　信　費	10,000	84	
印　刷　費	90,000	97,660	総会・活動報告会資料コピー代
会　議　費	650,000	458,310	総会・活動報告会・役員会会場費
諸　謝　金	280,000	143,100	役員会謝金・講師謝金
研究会活動費	100,000	38,890	会場使用料、資料印刷費
活動支援費	500,000	163,900	ｾﾐﾅｰ受講料補助、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ・販路開拓支援
その他活動費	140,000	80,430	第1回経営ビジネスセミナー負担金他
支払手数料	11,000	1,530	振込手数料
雑　　費	3,391	0	
次期繰越金	0	853,201	
合　　計	1,974,391	1,974,738	

普通預金残高　　853,201 円

令和6年度　総会

【特別講演】患者に優しいがん診断・治療装置の実現へ

７月１０日（水）、八戸グランドホテルにて総会を開催し、令和５年度事業報告および収支決算、並びに令和６年度事業計画（案）および収支予算（案）が承認されました。

引き続き、八戸工業高等専門学校 産業システム工学科の井関祐也准教授により、脱・短命県を目指し、患者に優しいがん診断・治療装置の開発について講演いただきました。

井関准教授は、４２～４３℃で一定期間加熱するとがん細胞が死滅するという臨床事実に基づいたがん治療法「ハイパーサーミア（温熱療法）」をベースに、がん治療装置や非侵襲温度計測を研究しています。ハイパーサーミアは患者への負担が少なく、抗がん剤・放射線療法との併用で高い治療効果を示している一方、深部がんに対し非侵襲に加温可能な装置が開発されておらず、生体内の温度計測が難しいという課題があります。

井関准教授はこれらを解決すべく、産学ならびに医学・機械・電気など分野を跨いだ研究開発を推進。今後は安全かつ効果的なハイパーサーミアの実現のためには温度計測は不可欠であるため、特に温度計測機能を有する空洞共振器加温装置の確立を目指し、今後のがん治療の重要な役割を担いたいと訴えました。

参加者からは、患者に優しく効果的な治療が現実的になってきている実感とともに、八戸からの実現に向けた期待の声が多数挙がっておりました。

井関准教授が関わる主な研究

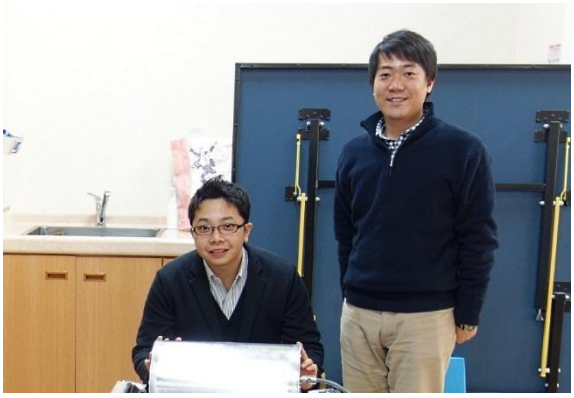
■空洞共振器加温装置
「空洞共振器」の内部に体を挿入し、深部がんのみを電磁波によって加温する新しい温熱治療装置の開発。

■新針状電極加温装置
国内外において広く用いられている加温装置の一つ「針状電極加温装置」について、直径 １ ㎜程度の電極を患部に刺し、体外電極との間に高周波電流を流してがんを加温することで、針状電極の刺さった箇所が確実に加温できる一方、加温エリアが狭いという欠点があり、加温エリアの拡大とともに、より安全な治療を目指した新装置を開発。

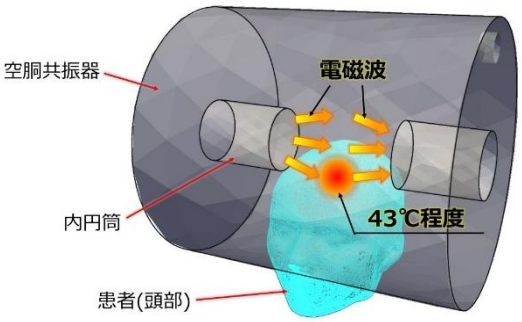
■超音波診断装置の応用
体内における温度分布の計測は効果的なハイパーサーミア治療に不可欠。がんの位置や大きさを把握し生体内温度分布を計測する「ガイド機能」、生体深部のがんの位置や大きさに応じて的確な加温が行える「加温機能」、さらに超音波画像と温度上昇の関係を AI に学習（ディープラーニング）させることによって、加温前後の超音波画像に生じるわずかに伸縮するという課題を解決し、超音波エコー画像から治療中の体内温度分布の明示化を実現。

■超精密高速温度センサ
皮膚に当てるだけで早期のがん診断を可能とする温度センサ（弘前大学、SEMITEC㈱と共同開発）。皮膚がんと健常な皮膚では有効熱伝導率がわずかに異なっていることに着目。SEMITEC 独自の２つの薄膜サーミスタ（温度測定センサ）により、従来は難しかった皮膚表面温度の精密かつ高速な計測を実現。

■高密度焦点式超音波治療（HIFU：ハイフ）
高密度の超音波によって腫瘍を焼き切って治療する装置。患者の体を切ることなく治療できるため近年高い注目を集めている。



2017 年、新規温熱療装置の開発で臨床デビューの頃の井関准教授(右)。
左は新藤康弘東洋大学 理工学部准教授



確立を目指す空洞共振器加温装置

技術懇話会 （併催：HC アカデミー）

デザイン・設計から解析・加工まで、ものづくりに必要なシーンすべてをカバーできる「Autodesk Fusion360」を体験

令和７年１月２８日（火）、青森県産業技術センター八戸工業研究協議会、振興センターとの共催で技術懇話会（併催「HC アカデミー」）を開催し、設計業務に携わる製造業者社員など１２名が参加しました。今年度は、ものづくり産業における技術革新、並びに対応するツールも日々進化し続ける中において必要不可欠であり、様々な業種業態で広く利用され効率化に貢献している 3D CAD に着目。次世代システムとして注目されている Autodesk Fusion 360（以下、Fusion という）について学ぶ機会として実施しました。

解説する Fusion テクニカルセールススペシャリストの関屋氏

講師は、Fusion の開発・販売元であるオートデスク㈱の浜田忠明アカウントマネージャーと関屋多門 Fusion テクニカルセールススペシャリスト。浜田氏からは CAD 技術の今日までの背景と現況、Fusion の概要と特徴、従来の CAD との相違点等が紹介されました。具体的には、Fusion は 3D CAD・CAM・CAE・PCB※が１つのソフトウエアに統合したクラウド型 3D ソフトウエアで、デザイン・設計から解析・加工まで、ものづくりに必要なシーンすべてをカバーできるというもの。簡単な操作性、設計変更への柔軟性、小さな投資で企業競争力が期待できること、三次元設計に加えて自動化と AI 技術をすぐに利用できる点などが強みであると説明されました。

その後関屋氏の指導の下、実際に Fusion を操作し、栓抜きの 3D モデルを作成する体験セミナーを実施。一人ひとりしっかり習得できるよう、八戸工業研究所職員が個別にサポートをしながら進められました。受講者からは「知りたいことを得られた」「新たに次世代型 3D CAD（Fusion）を導入したい（シミュレーション機能の強度計算などに利用できる）」などの感想が寄せられ、図面機能の使い方および運用方法、強度解析の機能、さらに詳しい使い方などを求める意見もありました。

※CAD…コンピュータを使って設計や製図を行うツール
CAM…工作機械での加工に必要な制御プログラムなどを作成するツール
CAE…コンピュータ上でシミュレーションや解析を実施するツール
PCB…プリント基板を設計・作成するツール

熱心に体験セミナーに向き合う受講者

真剣なまなざし

活動報告会

【特別講演】八戸地域へ自動車関連部品産業拠点確立へ/ 異業種参入・お客様の真の困りごとに答えた仕事

令和７年３月１２日（水）、八戸プラザホテルにて活動報告会を開催。講演会やセミナー、テーマ毎の意見交換会、県内外３回の視察会などの活動を報告しました。引き続き行われた特別講演では、新たな事業展開や異業種参入を果たしている地元企業２社が登壇しました。

㈱Ｆｒｏｍ　Ｚｅｒｏの矢立広美代表取締役は４７歳当時の

関会長より開会のご挨拶

２０２２年、個人事業主として金属加工業を創業。創業前は「個人で工作機械を購入できるのか？」「場所はどうする？」「融資はどうするのか？」など初めてのことばかりで苦労しましたが、現在では多品種少量・効率的なモノづくり・短納期を強みとして、半導体や医療、FA といった高精密部品を中心に取引が拡がっているとのこと。このような中㈱RBN（三沢市）から自動車空調部品の話が舞い込んだと言います。自動車産業といえば大量生産・コストにシビア・品質や納期が厳しい・商流が複雑・先行き不透明などさまざまな高いハードルがあるイメージでしたが、着手していくうちそのイメージとは異なり、自社でもできることを実践したと矢立社長。時を同じく、RBN を通じて愛知県の本社工場と技術や人材育成等さまざまな交流を深める機会を得、「信用」「信頼」「技術力」を得たこと、このことのみならず「中部地区では二次三次下請けが廃業しており、From Zeroのような企業を探している」「人材不足により完成車メーカー・部品メーカーとも東北や九州に目を向けている」「南海トラフ地震に備えたリスクヘッジ、災害発生時、陸続きというメリット並びに太平洋・日本海の２物流網での供給ルートがある」「自動車空調部品の仕事は２０年以上の期間において生産が見込める」といった背景から、この仕事を一つの軸として展開していくことを決断。矢立社長は自社のみならず、八戸地域の新たな産業基盤確立のチャンスであると強く訴えました。一方で産学官金の後押しがなければこのチャンスは拡がっていかないと、参加者に協力を呼びかけました。

創業について熱く語る矢立氏

仕事への思いを語る松下氏

続いて長野県飯田市に本社があり、電気機械器具の設計・製造を手掛ける㈱ミナミ八戸工場の松下武志専務取締役は、「約１８年、誘致企業としてお世話になっている八戸への恩返しをしたい」という思いから、自社完結可能な社会課題解決ビジネスとして社会福祉分野に着目。開発経緯を紹介しました。まずはシステム、エレクトロニクス、メカトロニクスにおける各専門の社員および女性社員「Minami Girls」から成るケア・ワーク事業部を開設。弘前大

真剣に聞き入る参加者の様子

学医工学技術者養成講座、介護資格講座を受講（その後社員は介護に関する資格を取得)、自治体や支援機関の支援も得ながら、八戸地域介護施設事業者へのアンケートでは約７０件から回答をいただきました。その内容から製品やサービス開発の方針を決定し、受け入れてくださる「パートナー施設」の現場において、実際の仕事から真の困りごと、第三者目線で気づく改善点などを実感。現場からは「本当に必要で使いやすい機能が欲しい」「地元の施設が購入しやすい価格」「何か困った時の迅速なサポート」などが切望。これらをすべて具現化した「エビデンス記録アプリ　ケアコワーカー」「無線機見守りシステム知らせてけろ」「見守りカメラシステム　映してけろ」をついに完成させ、４月に市場へのリリースが決定しました（サポート体制も整備)。実際に導入したパートナー施設担当者による喜びの声も紹介。松下専務は、ひとつの通過点であるものの「ありがとうと言われる仕事、直接的に人を助けるという本来の仕事の姿、人と触れ合い、社会的責任を果たすやりがい」を切に感じたと充実感を表していました。

身近にある地元中小企業の挑戦にメモを執る参加者が多かったようです。

いい笑顔！

乾杯を待つ交流会参加者の皆さま

八工研高柳所長による乾杯のご発声

片手でつまみやすい料理

中締めは東北三吉工業㈱
関口顧問

テーマ別研究会

「第１回　総務･管理部門による意見交換会」

１１月６日（水)、八戸インテリジェントプラザにおいて総務・管理部門の方々を対象とした意見交換会を開催。この企画は会社全体の運営において幅広い業務に携わる中での現状や問題点を出し合いながら、個別課題については他社からヒントを得たり、共通課題については解決に向け共に進めるための契機として実施したもので、９社１３名が参加しました。

初めに人材について「新卒、中途（退職自衛官など）とも採用でき、ここ最近は派遣社員も活用している」と回答する企業がある一方、「募集しても来ない」」「外国人実習生を受け入れているが３年縛り（技能実習生は５年）で継続性がない」「従業員の高齢化」「ある程度スキルを身に着けた段階での退職により中堅社員がいない」など問題を抱えている現状が多数挙がりましたが、世代間ギャップを感じたり、指導についてハラスメントにならないかを意識してしまうとの意見、教育には時間を要する、働き方改革の影響による残業の減少により生産性が上がりづらくなっているとの指摘もありました。

このような中、いくつかの企業より社員が働きやすく長く勤めてもらう取組が紹介され、参加者は皆、関心を深めておりました（表)。その他福利厚生については各社から「シャワー・サウナ付きの浴場を完備」「フィットネスクラブ法人会員となり社員へ利用促進」「資格手当・改善提案や目標達成に対する表彰や手当」「クラブ活動・バーベキュー大会・キャンプ」「出産祝いや社員が家族を招待するイベント」などが挙がり、それぞれ工夫している様子が見られました。

各社から紹介された、社員が働きやすく長く勤めてもらうための取組（一部抜粋）

■外部講師に委託し、階層別と全社員対象の２系統において、ワークショップを主体とした社員教育（ハラスメントやコンプライアンス対策を。また工場勤務社員を対象にコミュニケーション力向上など）を４年間実施中。社員の意識がだいぶ変わってきた。

■コミュニケーションを重視し、社員が何を求めているか本質を見極め、社員が納得できるまで対話。採用計画は各部門の年齢構成、必要な人材などに基づき５年先を戦略的に考え、必要なスキルを持った人を採用することで入社前とのギャップを縮小し、新人に対しては馴染むまで寄り添う。

■同じ仕事をしていると飽きが生じやすく離職の起因になりかねないので、ワークショップなどを通じた学びを経験する機会を毎月設けている。異なる店舗の社員が連携することによりお客様へのサービスに対する意思統一にも寄与している。

■求職者の選択肢になる取り組みでは会社を知ってもらうため工場見学をやっている。２週間に１回程度の頻度で見学予約が入っており、八戸市内の全中学校は見学済。生徒たちの将来の選択肢の一つになりたい。

次回は今回の内容に基づきつつ、その他の要望やお悩みもヒアリングしながらテーマ設定し、会員企業の問題解決に向けた取り組みを行う予定です。

第1回目　参加者の様子

意見を述べる参加者

「第2回　総務・管理部門による意見交換会」

令和７年２月１９日（水）、八戸インテリジェントプラザにおいて２回目の意見交換会を実施し、８社・機関１１名が参加しました。今回は「人材不足・育成」「業務の生産性とモチベーション」を中心に多くの意見等が出され、熱心にメモをとっている姿が目立ちました（内容は以下（一部抜粋/実施予定を含む））、また「健康とヘルスケア」では、健康診断を実施したあと産業医からのコメントや結果に対しどのように管理しているのか、健康増進対策、有所見率の改善についての取組みについて、各社の実施状況が交わされていました。

人材不足（採用）

・ハローワークの協力、積極的な学校訪問により新規校からの採用につながった
・先生方との接点が重要。どのように知ってもらうか、積極的なアピールが必要
・新卒採用については雇用対策協議会が有効
・土日休みで年間休日 120 日を重視、近くて通勤しやすいこと
・ホームページに学校名と採用人数の一覧を掲載する
・農家さんに農閑期に期間工として働いてもらう

事務業務の生産性とモチベーション

・総務・経理で実施しているコトを書き出し、数値化することで生産性の判断が可能になる。例えば定型業務を IT 化して省力化し、先のことを考える時間を作り出すのがモチベーション向上に繋がるのではないか
・勤怠は Web で実施。定型業務の RPA 化
・多能工マップでスキル評価（賞与に反映）
・人事評価制度による点数化

人材育成・定着

【教育】

■コンプライアンス研修

全従業員が受講。ハラスメント事例に対するグループワーク、必要性が浸透し意識が変ってきた。コミュニケーションスキル向上にも寄与

■選抜育成研修

社会人としてのスキルアップが目的。若い社員が多く、他部署との情報共有の場としても有効

■階層別研修　次の階級に上がるための事前準備として実施

・e ラーニングを部長以上の役員まで全員受講
・２年間ですべての課を経験させ、本人が希望する部署に配属することにより、装置に触れたことがなくても従事できる仕組み
・各部門係長に対し、必要な教育を実施させ技術継承、総務管理部門の分散化

【有休取特に関する取組】
・年間５日の義務がある。課長級含め取得していない社員には勤怠管理システムで自動送信メールにより取得を促す
・５日間の管理職年間連休制度を実施（管理職が不在でも仕事が回る仕組みづくり）

第2回目　参加者の様子

１回目より少し打ち解け意見交換もスムーズに

関 連 活 動

DX セミナー「地方企業のためのDX戦略とRPA」

RPA、DX 戦略について語る十文字氏

６月１７（月）、㈱デーリー東北新聞社は振興センター・㈱八戸インテリジェントプラザ・利用研との共催で自社のデジタル化経験に基づき、地域事業者等への RPA 化支援に関するセミナーを開催し、約４０名が参加しました。

RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）とは、パソコン内で複数のツールに亘って定期的に行っている作業を自動化するシステムで、ノンプログラミングであることが特徴ですが、ツールの多くは高価で、利用料の他ロボット開発費も要し、テスト運用やスモールスタートが難しい点、従事できる社員の有無、費用対効果の見通し、社内における必要性の理解といった問題により、導入が進んでいない側面があります。

講師を務めたデーリー東北の十文字孝太システム開発部次長は「自社は新聞を発行する「紙文化」で、データや業務運用も紙で溢れ、他の事業者同様、デジタル化に課題があった」と現状を説明。このような中、ツール利用料が無料ながら一般的な RPA 機能は搭載されている「マクロマン（コクー㈱提供）」に出会い、新聞紙面作成において毎日担当者が関係 Web サイトにアクセスし情報を取得していた「新幹線・旅客機・フェリー・高速バスの空席情報」を自動化（①決まった時間にプログラムを起動→②各 Web サイトにアクセスして検索・情報収集→③保存・加工）することにより、月６０時間以上の削減を実現したと紹介しました。

また十文字次長はこの経験を自社だけでなく、地域の事業者や学校等に対し「伴走型により還元したい」という考えから支援業務をスタートさせ、八戸市の金属加工業である㈲鈴木鉄工所を一例として取り上げました。同社の事務作業はまさに「紙との格闘」でしたが、取引先からの見積依頼対応を RPA 化することにより月４０時間の削減を達成。「①取引先との発注システムにログインし部品製造の見積依頼データをダウンロード→②これを Excel で加工し必要情報を抽出。納品日毎に同一部品で製造依頼数をまとめる→③部品単位で過去の受注データを検索し受注価格を調べ見積金額を算出」について、RPA プログラムが稼働し処理している状況をスクリーン上で実演しました。このシステムを構築したのはデーリー東北入社６か月、RPA 未経験の新入社員。十文字次長はこのような社員でもデジタル人材育成が可能であるとともに、作業プロセスの習得および情報整理力、問題発見力も身につくことがポイントであると指摘しました。

後半はコクー㈱RPA 事業部の守山祥平氏より「マクロマン」に関する説明や事例紹

介があり、参加した企業からは「わかりやすく、導入・運用のしやすさがよく理解できた」「コストも抑えられ、自社でも自動化したい業務に活用できそうだ。導入を検討したい」など前向きな意見が多く挙がりました。

デーリー東北では今後、RPA だけでなく「業務改善」「クラウド・AI」「データ活用/分析」「IT 人材育成」においても体制を整備中であり、十文字次長は「地域の皆様に対し、これからも私たちのノウハウを少しでも寄与できる役割を担っていきたい」と展望を語っていました。

岩手県北企業視察会

振興センターは７月２日（火）、利用研・アイピー倶楽部との共催で岩手県北地域企業視察会を実施し、産学官金関係者１８名が参加しました。

猛暑の中、日當社長から説明を受ける参加者

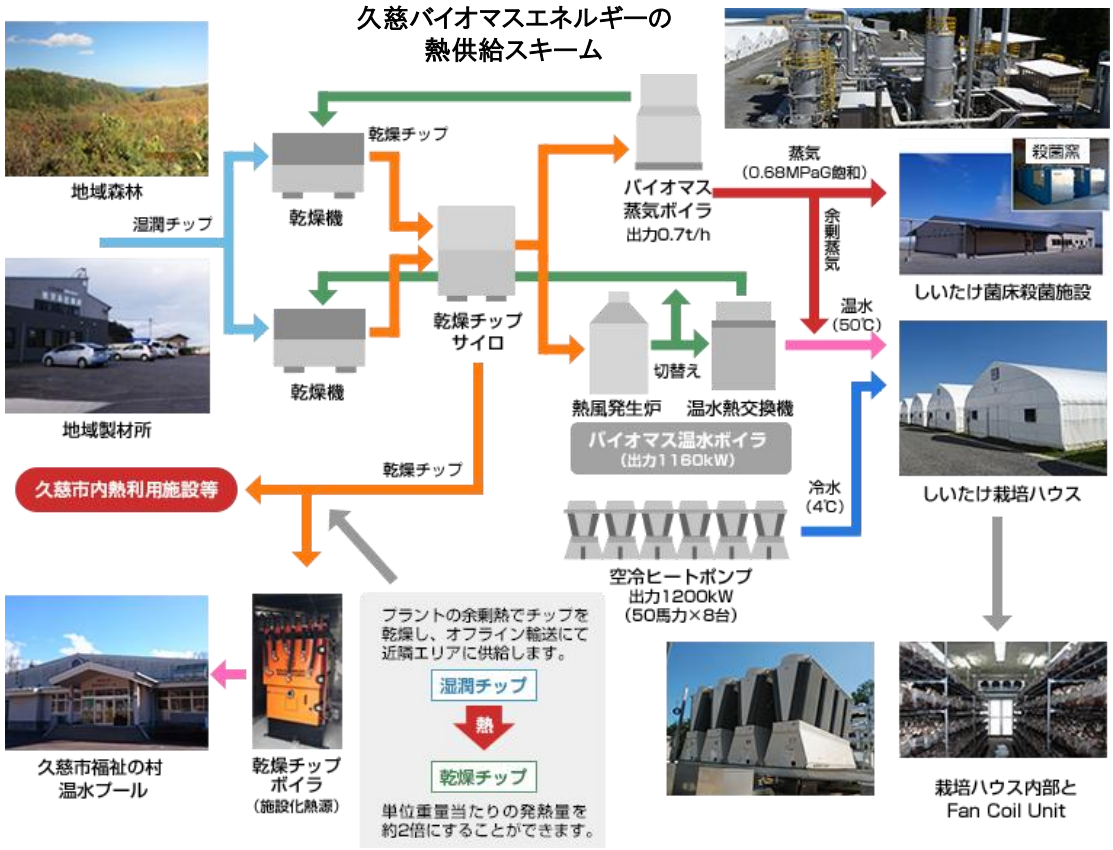
一行はまず、久慈バイオマスエネルギー㈱へ。製材会社の社長も兼任する日當和孝代表取締役が地元の木質廃材で何かできないかと２００９年から調査を始め２０１４年に設立。樹皮や木の根、廃菌床など未利用木質バイオマスを燃やし、隣接する大規模菌床しいたけ事業者に蒸気・温水・冷水を、また排熱でチップを乾燥させ市内温水プールなどに供給する事業を行っています。日當社長から同社の成り立ち、ビジョン、今後の課題などの説明を受けたあと、熱供給プラント、菌床しいたけハウスの見学へ。社長自ら案内してくださり、参加者からは様々な質問が飛び交いました。

プラント内を見学

隣接する越戸きのこ園　しいたけハウス

ヒートポンプでの冷水製造による冷房で
ひんやり涼しいハウス内

ずらりと並んだ菌床しいたけ



久慈市内での昼食をはさみ、婦人ハイブランドのジャケット・コートを中心とした日本の代表的アパレル工場である岩手モリヤ㈱へ。初めに森奥信孝代表取締役社長より、会社概要とともに日本の縫製工場が抱える問題、それに対し同社がどう対策を講じ世界のハイブランドから信頼を得たのか、またデジタル化やSDGsへの取組みなどについて「NHKおはよう日本」出演時の動画等を交え説明後、全自動裁断機などが稼働する様子、シワをつくらず工程搬送するハンガーシステム（イートン社製）など全工程を見学。女性従業員が生き生きと作業する姿が印象的でした。ちょうどインターンシップで仙台の専門学校から数名の生徒が訪れており、ベテラン社員に指導を受けながら縫製している様子も見られました。

久慈の名店「鮨処きよ田」でランチ

たくさんの女性が働く工場内
天井にはハンガーシステムが

ハンガーシステムについて説明を受ける参加者

続いて洋野町に移動し、医療用ステープラーの組立、針付き縫合糸の製造等を行うケイセイ医科工業㈱へ。２０１７年１０月に同町角浜小旧校舎を活用した東北事業所を開設し、２０１９年５月に新工場が完成。滅菌装置や包装装置を備え、原材料の受け入れから包装工程まで一貫製造を行う無菌化工場ですが、この日はタイミングが合わず残念ながら見学はNG。旧校舎工場の見学と医療用ステープラー打ち出しの体験を行いました。

普段なかなか見ることのできない業種の異なる３社を視察し、参加者の満足度は１００％。「廃材処分の課題解決から始まった事業で、金儲け目線ではない主旨に

人々が集まってきた経緯が素晴らしかった」「技術という芯のぶれない部分をしっかり続けることの重要性を改めて実感した」「仕様書にない技術で他社と差別化しているとのこと、自分たちの努力で勝負しているのがとても印象的だった」などの感想をいただきました。各社から新たな知見を得られ、大変有意義な視察会となったようです。

経営ビジネスセミナー（併催：アイピー倶楽部「経済講演会」）

「経産省DXセレクション2024※グランプリ企業から学ぶDX」

９月１３日（金）、振興センターとの共催で浜松倉庫㈱（静岡県浜松市）の中山彰人代表取締役社長をお招きし、経営ビジネスセミナーを開催。幅広い業種の企業、学官金関係者ら約４０名が参加しました。

自社のDX、今後の展望について語る中山氏

浜松倉庫㈱は１９０７年（明治４０年）設立の老舗総合物流会社。「浜松地域に事業を通じて賑わいをもたらし、当地域に貢献する」ことを存在意義とし、約２０年前から様々な取り組みに着手します。まずは少子化を見据え、現場女性従業員の採用を開始し若年層の人材確保に成功。現場女性採用比率は５４．５％にのぼり、リフトオペレーターの１/３を女性が占めるまでになりました。

２０１５年からは生産性向上をめざし、若手幹部社員中心に徹底的な業務見直しを開始。情報共有の仕組み構築、若手従業員に考える癖をつけさせるための教育など下地作りから始め、３年の中期プロジェクトにより業務のスリム化、営業力強化、品質向上を図ります。お客様（荷主）を巻き込み、データ提供の手段を複数用意したことにより、FAXレス、ペーパーレスを実現。データ入力業務が激減し、事務職の生産性向上につながりテレワークも可能に。またデータを分析し提示することで、受け身型から提案型へとビジネスモデルも変化しました。以上より１０人工分の余力を創出し、新プロジェクトの初期スタッフへの活用につながりました。

今後は環境配慮型GX倉庫を新設し、ロボット協働の医療機器物流を開始するとのこと。中山社長は「DXの核心はＸ（transformation=変革）。目的は事業存続であり、少しずつのＸが大きな成果を生む。常に時代の先を見据え『変革』しながら持続可能な企業であり続けるよう取り組んでいく」と述べられました。参加者からは「改革の意識づけの重要性を認識した」「コンサルを入れずに社員に考えさせて答えを出すという

自発性を促す方法は大変感動した」「デジタルツールありきではなく、変革の意思と中長期計画の実行・達成に合わせたツールの活用、継続した改善が重要であると感じた」「トップダウンではなく社員が自ら考え行動する組織づくりを進めたい」などの声が寄せられました。

※DX で成果を残している中堅・中小企業のモデルケースとなる優良事例を選定するもの。

講演に聞き入る参加者

交流会での乾杯のご発声は武輪水産㈱武輪社長

福島･宮城企業視察会

１０月３日（木）～４日（金）、アイピー倶楽部・振興センターとの共催で福島・宮城企業視察会を実施し、事務局含め１１名が参加しました。

初めに向かったのは CO_2 フリーの循環型地域社会づくりを目指し、２０１８年に相馬市と㈱IHIが開設したそうま IHI グリーンエネルギーセンター。再生可能エネルギーの活用と水素製造から利用までの技術実証研究を進めています。１．６メガワットの太陽光発電で得た電力を近隣の下水道処理・ゴミ焼却場等にて利用し、余剰電力で水を電気分解しグリーン水素を製造。その際生まれる酸素はアクアポニックス※でティラピア等の陸上養殖に活用。また下水汚泥は肥料ペレットに再資源化し、グリーン水素と二酸化炭素から合成したメタンはコミュニティバスの燃料に活用するなど、様々な取り組みを行っています。各設備

あいにくの雨。そうまラボ内から見える各施設

IHI 齋藤主査から施設内外の電気の流れについて説明を受ける参加者

をじっくりと見学し、参加者からは活発に質問が飛びかいました。

次に伺ったのは浅野撚糸㈱フタバスーパーゼロミル。世界初の特許技術撚糸「SUPER ZERO®」の大規模生産工場と看板商品「エアーかおる」直売店、カフェが一体となった双葉町復興のシンボルともいえる大規模複合施設です。昨年度浅野社長にセミナーの講師を務めていただいたご縁での訪問となりました。会社概要説明・見学のアテンドは入社１年目の１０代社員が担当。施設内は糸をモチーフとしたイラストやピクトグラムがあしらわれ、浅野撚糸の歴史と想いが壁面につづられた「ジグザグストーリー」を見ながら進みます。撚糸機２０台がずらりと並んだ工場は圧巻の一言。見学終了後エアーかおるの吸水力実験でその違いを目の当たりにした一同は、直営ショップで各々買い物を楽しみました。

フタバスーパーゼロミル全景（模型）

解放感溢れるロビー

２日目は宮城県に移動し、アイリスオーヤマ㈱角田 I.T.P（インダストリアル・テクノ・パーク）へ。会社概要の説明後、まず向かったのはショールーム。家電や照明、収納用品、ペット用品から食品、飲料、インテリア家具や衣類まで、様々な製品がずらりと陳列。また同社のこれまでの軌跡と歴代の製品、企業理念等などがパネル展示され、見学者が学べる仕組みに。テレビ等でしばしば取り上げられる毎週月曜日の「新商品開発会議」が開かれる会議室も見学。ここで採用された企画から年間約１０００アイテムの新商品が生まれるとのことでした。最後にパックご飯の製造ライン見学へ。１５℃以下の環境で精米した低温製法米を１０秒程で製造ラインに送り込み、洗米・浸水、充填、加圧殺菌、注水工程を経て９０分間蒸気でむらなく炊飯。その後冷却・除水、各種検査のあと包装され出荷となりますが、一連の工程では基本的に人手を介することはないとのこと。よく見かけるパックご飯がこのような最先端の設備で作られていることに驚嘆しました。

アイリスオーヤマの歴史をパネルと製品で展示

毎週月曜日の
「新商品開発会議」が開かれる会議室

ロビーで記念撮影

最後に訪問したのは閖上東産業用地内にある㈱宮城マイクロブルワリーが運営する宮城ゆりあげ麦酒醸造所。１９９７年に宮城県亘理町で創業しましたが、震災の影響で岩手県花巻の仮工場に移転し操業を続け、２０２０年に念願叶い宮城に返り咲き開業。熱処理していない新鮮な生ビールが売りでピルスナー、ヴァイツェンなどの定番ビールはもちろん、ぶどうエール、りんごエールなどの果汁を使ったシリーズも人気を集めています。この日は４種のクラフトビールの試飲ができ、参加者は自慢の味を堪能しました。

視察会終了後はかわまちてらす閖上、震災復興伝承館などにも足を運び震災の記憶、復興の状況を体感。参加者からは「なかなか来られない地域に来ることができ、復興

への取組みを見られ満足」「水素利用の可能性と今後の社会実装についての理解が進んだ」「マーケットインの考え方の重要性、新商品開発・展開・発展について学ぶことができた」など様々な感想をいただきました。

※魚と植物の共生を利用した、水と栄養が完全循環する持続可能な農業システム

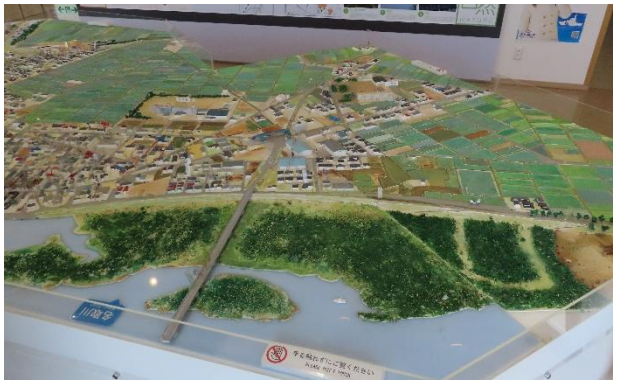
竜と鳳凰をモチーフにした妻壁レリーフサインが個性的

高橋工場長（左手前）とスタッフの説明を聞きながらどんどん試飲

復興のシンボル　かわまちてらす閖上

ランチは「浜や食堂かわまちてらす閖上店」の海鮮丼

名取市震災復興伝承館へ



「失われた街」模型復元 PJ による震災前の閖上地区を忠実に再現した 1/500 のジオラマ

八戸工業高等専門学校　研究室めぐり

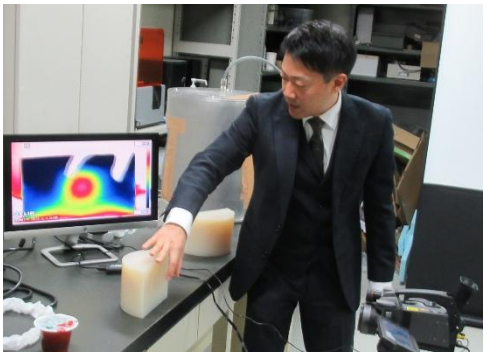
～八戸高専では9年ぶり開催／研究室を直接訪問し研究の実際に触れる～

１２月２日（月）、振興センターとの共催で「八戸工業高等専門学校研究室めぐり」を開催しました。本行事は昨年度の八戸工業大学に続き、どのような研究が行われ地域や社会に役立つのか、どんなことが学べるのかを知る機会として、また産学連携を目的とした先生方とのコネクションづくりの契機として、当地域企業や一般市民など約３０名が参加しました。産業システム工学科の４コース（機械・医工学コース、電気情報工学コース、マテリアル・バイオ工学コース、環境都市・建築デザインコース）の紹介後、研究室へ移動。各先生より実際に使用する装置やデモンストレーションも交えながら研究内容をわかりやすく説明いただきました（研究内容は下記参照）。

参加者からは「身近なものに関する研究が多く、どれも実現されるとより良い生活につながるものばかりだと感じた」「再エネ分野の新技術、作業効率化、自動化などの分野で今後産学官連携などに活かせればと思った」「学生がどのような形で参加されているのか、どう考え、どのような目的意識をもって研究されているのか興味がある」などの意見や感想が寄せられました。

【見学した研究室と研究内容】

機械・医工学コース　井関　祐也　准教授



がん細胞が熱に弱く 42±0.5℃で温められると死滅する性質を利用した治療法（ハイパーサーミア）の研究。患者に触らず、傷つけずに深部がんのみを加温可能な装置を開発中。がんの位置や大きさを把握し生体内温度分布を計測、また生体深部におけるその位置や大きさに応じて的確に加温したり、超音波画像と温度上昇を AI に学習させることにより治療中の体内温度を画像によって明示化。SEMITEC㈱等と皮膚がん診断装置を共同開発。

電気情報工学コース　秋田　敏宏　准教授

国内外におけるモノづくり人材の育成に資する研究・開発として、要素技術が幅広い電気自動車を題材に産学連携による教育モデルを開発。モノづくり、生産技術・5S 並びに環境教育に至るまで、開発・教育双方のノウハウ習得に役立つ教材となっている。またロボットコンテスト参加を通じ、組み込みソフト等を開発する人材育成にも貢献。ソフトウェア無線による電磁波観測システム、バス乗降支援など障がい者支援システムにも取り組まれている。

マテリアル・バイオ工学コース　山本　歩　准教授

食に関する安全性（食品添加物等のゲノム DNA に対する毒性や作用機構の分析）・機能性（がん等の予防に期待できる農林水産物の機能性解析）・有効利用（抗菌など）・加工（農産物加工工程で生じる残渣を有効利用するための加工方法の検討等）・酵母（発酵食品に利用できる酵母の自然界からの分離・解析）の各研究。酵母では、椿山の自生ツバキから分離した「八戸高専　椿山酵母」、縄文時代の地層から分離した酵母「山内丸山ユメカモス」などを解析。多くのワイナリーやベーカリーと連携し、この酵母を使った商品が販売されている。

環境都市・建築デザインコース　李　善太　准教授

下水道処理においてさまざまな耐性を有する薬剤耐性菌（抗菌薬に対して感受性がなく効かない細菌）と、各耐性に感染するバクテリオファージの実態調査。バクテリオファージは細菌等に感染すると複製するウイルスで、感染した細菌は細胞膜が破壊される現象を起こし死細胞を残さない特性を持つ。本研究により下水道処理過程における薬剤耐性菌の制御手法を開発。畜産排水から水環境中へ放流された薬剤耐性菌の実態調査とその抑制方法の研究開発も実施。

DX セミナー 「kintone×BI ツールで業務革命！」

「ハンズオン」により実際に kintone を体験する参加者

１２月４日（水）、デーリー東北新聞社は㈱八戸インテリジェントプラザ、振興センター、利用研との共催により「kintone」と「BI ツール（ビジネスインテリジェンスツール）」で業務改革を行うセミナーを開催し、地域企業約１５名が参加しました。

「kintone」はサイボウズ㈱が提供する Web データベース型の業務アプリ構築クラウドサービスで、デーリー東北新聞社の十文字孝太次長より紹介。さまざまな業種・業界で利用されているシステムで契約中企業は３万社以上（増加中）。特徴であるノーコード（プログラミングの知識がなくてもドラッグ＆ドロップなど視覚的な操作でアプリケーションや Web サービスを開発できる手法）により、業務アプリを自由に作成したり、アプリの連携や情報の一元化、グラフや帳票の作成などを柔軟にカスタマイズできます。例えばこれまで Microsoft

Excel や紙媒体などにより、分散して管理・運用していた情報の集約が可能。また開発スピードが速く、そのコストも削減できるメリットがあります。参加者は実際にパソコンで「顧客管理・案件管理・活動管理」の各アプリを作成し、相互に連携させながら一元管理できることを確認するとともに、操作性の手軽さを体験しました。

BI ツールについて事例を挙げて解説する田中氏

続いて八戸東和薬品㈱（ジェネリック医薬品の卸売）の田中 CIO より、「BI ツール」は企業がデータを収集・分析・可視化しビジネスの意思決定を支援するツールで、速い意思決定や説得力のある議論を実現できると紹介。例えば季節ごとの売れ筋傾向から適切な生産計画を立てたり、売上上位の商品でも、製造工程や経費、従業員の労働時間などを紐解いてみると実は利益率が低かったという実態が明確になったりした事例もあります。田中 CIO はグループ会社である㈱きちみ製麺（白石温麺の製造・販売/宮城県白石市）で活用しているシステムを例に、業務改善のステップとして「1.全体の流れを把握する」「2.業務をなくせないか（ひとつにまとめられないか、順序や場所の入替で効率化しないか、これらにより単純化できないかなど）検討する」「3.既存の仕組みで解決できないか確認する」「4.ツールの導入は最後に考える」がポイントであり、またツール導入の注意点として「利益や生産性をあげるために客観的データを把握すること」「引き算の視点」を挙げました。受講後、自社の改善に対する手応えを感じ、業務分析を行った上で導入できるか検討に入る参加者もおりました。

カーボンニュートラルに向けた先行地域視察会《苫小牧》

振興センターでは１２月１９日（木）～２０日（金）の１泊２日の行程で、八戸市、八戸地域新ゼロエミッション連絡協議会（以下、八戸新ゼロエミ協）、利用研との共催によりカーボンニュートラル（以下、CN）の先行地域である北海道苫小牧市を視察し、八戸新ゼロエミ協の会員企業、参画企業、八戸市職員（水素等導入推進プロジェクトチーム）等２７名が参加しました。

脱炭素社会の構築が求められている中、２０１２年に全国１１５か所の候補地から国内初のCCS（二酸化炭素の回収と貯蔵）大規模実証試験実施場に選ばれた苫小牧市。

視察１日目は苫小牧市側の担当者（苫小牧市職員・苫小牧港管理組合担当者）と八戸地域の参加者との意見交換を行いました。苫小牧市側からは水素やアンモニアのサプライチェーン構築に向けた取組、これに対応する CNP（カーボンニュートラルポート）の形成について説明会があり、八戸市側からは水素導入推進 PJ の設置や八戸地域新ゼロエミ協の活動内容の紹介がありました。また後半では、大規模実証試験実施場誘致に成功した経緯や市民を含む市内企業の反応等について質疑が出され、活発な意見交換会となりました。

CO_2吸収塔、放散塔、低圧フラッシュ塔を見学する参加者

圧入井にて説明を受ける参加者

視察２日目はCCS実証実験を行っている日本 CCS 調査㈱へ。同社は NEDO からの委託を受け CCS 実証実験やその技術の調査、CO_2船舶輸送に関する技術開発を行っている企業。今回はCO_2の回収から地中（海底下）に貯蓄するまでの流れを視察できました。まず、CCS の仕組みやメカニズム等の説明の後、管理棟屋上から CO_2の分離回収を担っているCO_2吸収塔、放散塔、低圧フラッシュ塔を中心とした設備の説明を受けました。供給されるCO_2含有ガスを分散回収、圧縮の後、２杭ある圧入井から圧入するとのことでした。CO_2回収量：６００トン/日（最大）、CO_2回収率：９９．９％以上（２０１９年１１月に実証試験の目標３０万トン圧入を達成。現在は停止しモニタリング中）。また敷地内にある圧入井も見学させてもらいました。参加者からは苫小牧市との関係や連携の有無、株式会社としての経営状況等について質問が出されていました。

続いて伺ったのは苫小牧市に隣接する厚真町。北海道電力㈱苫東厚真発電所の敷地内にある水素製造設備を視察しました。水素電解装置は電解槽で純水を電気分解し、純度の高い水素を製造する装置で、エネルギー庁の補助事業で導入した電気槽を設置し運転を開始。運転開始後は設備性能の評価に加え、寒冷地における運用・保守技術の確立を図り、水素社会の実現に向けて検討中で、将来的には製造された水素を圧縮し、パイプライン等で地域の工場や製油所、水素ステーション等に供給するサプライチェーン構築を目指しているとのことでした。

今回の視察は地域の特性を捉えた「八戸モデル」の創出を推し進める八戸市と八戸地域にとって、F/S（プロジェクトの実行可能性調査）の重要性を再認識する視察となりました。

「高度技術利用研究会」会員・委員一覧

【会　員】

令和7年7月1日現在

No.	所属団体名	主な事業内容	〒	住　　所	電話番号	代　　表　　者		担　　当　　者	
1	赤間印刷工業㈱	企画・制作・印刷（オフセット印刷）/一般商業印刷物/販売促進支援/書籍編集・出版/ラベル・シール・フィルム印刷/イベント支援ツール/ホームページ制作、運営管理	031-0072	八戸市城下1-24-21	0178-43-7158	代表取締役	竹ノ子　昭二	営業部課長	大　矢　嘉　康
2	㈱アケア	水処理薬品・装置販売	039-2245	八戸市北インター工業団地3-2-88	0178-28-2035	代表取締役社長	外　山　政　信	総務課　課長	伝　法　　昭
3	㈱浅利研究所	各種自動機(食肉加工機械・食肉搬送機械等)省力機械設計・製作・設置工事	039-2245	八戸市北インター工業団地3-2-84	0178-51-2323	代表取締役	浅　利　圭　吾	取締役専務	豊　田　静　夫
4	㈱アルバック　東北工場	各種産業向け真空装置製造	039-2245	八戸市北インター工業団地6-1-16	0178-28-8280	東北工場長	後　山　　亮	東北工場管理部 FM・環境・労働安全係・担当課長	小　向　幸　生
5	アンデス電気㈱	電気機械器具製造業	039-2292	八戸市桔梗野工業団地1-3-1	0178-20-2811	代表取締役社長	安　田　年　孝	管理部　経営企画	風　間　禎　之
6	伊勢屋金網工業㈱八戸営業所	金網製造・販売、外構工事	039-1211	三戸郡階上町蒼前東1-9-91	0178-88-3361	代表取締役社長	石　田　昭　三	取締役	林　　賢　吉
7	㈱エイ・ケー・ケー	電気機械器具製造業、自己制御ヒーター製造	033-0073	上北郡六戸町金矢2-2	0176-51-1101	代表取締役社長	神　田　正　之	管理部　部長	和　田　　毅
8	エプソンアトミックス㈱	金属粉末、金属射出成形部品、 人工水晶原石の開発、製造、販売	039-1161	八戸市大字河原木字海岸4-44	0178-73-2801	代表取締役社長	沼　沢　　亮	事業管理部 課長	小 川 原　望
9	奥羽クリーンテクノロジー㈱	一般・産業廃棄物処理	039-1162	八戸市豊洲3-19	0178-44-1061	代表取締役社長	笹　垣　岳　史	施設運転管理部　総括	舘　　重　博
10	㈲カワサキ機工	製缶/板金/プレス/溶接/切断/切削/ ショットブラスト加工等	039-2173	上北郡おいらせ町瓢245-188	0178-56-4471	代表取締役	川　崎　　玲	取締役会長	川　崎　直　美
11	環境緑花工業㈱	造園業・植物工場事業・土木業・樹木生産業・廃棄物（木くず）処分業	039-1161	八戸市大字河原木字千刈田12-5	0178-20-3400	代表取締役	山　谷　幹　樹	代表取締役	山　谷　幹　樹
12	北日本機械金属㈱北インター工場	金属加工製造業 （精密加工、一般機械加工及び組立）	039-2245	八戸市北インター工業団地3-3-22	0178-21-1566	代表取締役	小野寺　泰　博	常務取締役	田　中　健　悦
13	旭光通信システム㈱	鉄道・高速道路用情報通信機器及び鉄道信号製品設計・製造・販売	039-2245	八戸市北インター工業団地1-3-35	0178-20-5540	代表取締役	酒　井　元　晴	技術部　部長	三　浦　克　友
14	㈲クリーニングイルカ	一般洗濯業・クリーニング業	031-0802	八戸市小中野2丁目9-15	0178-44-2261	代表取締役	平　山　佳　子	代表取締役	平　山　佳　子
15	高周波鋳造㈱	銑鉄鋳物製造業 球状黒鉛鋳鉄(FCD)・普通鋳鉄(FC)・合金鋳鉄鋳物・堰破断機製造、販売	031-0071	八戸市沼館4-7-108	0178-43-0127	代表取締役社長	定　村　　剛	総務企画部長	末　村　　洋
16	合同酒精㈱酵素医薬品工場	酵素・医薬品類の製造	031-0072	八戸市城下2-11-67	0178-71-1204	工場長	石　田　尚　彦	品質管理グループマネージャー	白　髭　泰　光
17	広和計装㈱	電気計装制御装置製造・ソフトウェア開発・電気工事・医工製品(医療用機器検査装置等)の開発、販売	039-1103	八戸市大字長苗代字上碇田6-1	0178-27-1245	代表取締役	粟 飯 原　　進	企画営業室長	松　橋　昌　昭
18	小林農園	農業・農産品等販売、他	034-0302	十和田市大字沢田字三日市142	0176-73-2612	代表	小　林　茂　好	代表	小　林　茂　好
19	サクサシステムエンジニアリング㈱	通信・情報機器のソフトウェア開発、 システム開発	039-2245	八戸市北インター工業団地1-3-54	0178-20-4555	代表取締役社長	髙　橋　　徹	管理部部長	虻　川　　修
20	㈱ササキコーポレーション	農業機械・環境関連機械 の開発・製造・販売	034-8618	十和田市三本木字里ノ沢1-259	0176-22-3111	代表取締役社長	佐々木　一　仁	取締役 技術開発部長	戸　田　　勉
21	㈱サン・コンピュータ	ソフトウェア開発・ネットワーク構築 コンピュータ機器等の販売	039-2245	八戸市北インター工業団地1-5-10	0178-21-1100	代表取締役社長	三　浦　克　之	代表取締役社長	三　浦　克　之
22	三興電子工業㈱	各種サーミスタセンサ（温度センサ） 及びバッテリーパック用モジュール基盤の製造	034-0001	十和田市大字三本木字矢神58-1	0176-26-2331	代表取締役	小松崎　寿　志	総務部長	田　守　誠　悦
23	新光印刷㈱	デザイン・印刷・出版	031-0813	八戸市新井田字鷹清水9-11	0178-34-5331	代表取締役社長	上　野　良　範	代表取締役	上　野　裕　泰
24	㈱新菱　八戸工場	化学製品の開発・製造、環境測定	031-0801	八戸市江陽3-1-109	0178-44-1113	八戸工場長	原　　貴　久	環境事業課　課長	工　藤　正　人
25	㈱セイシンハイテック	精密部品加工、精密製缶、省力化機器 設計・製造・組立	039-2246	八戸市桔梗野工業団地3-5-50	0178-29-3300	代表取締役	金　田　功　治	取締役常務	金　田　隆　敏
26	SEMITEC㈱ 八戸テクノロジーセンター	サーミスタ温度センサ、薄膜温度センサ、 圧力センサの設計・製造・販売	039-2245	八戸市北インター工業団地1-4-43	0178-38-8616	代表取締役社長	石　塚　大　助	取締役　執行役員	十文字 裕司
27	大平洋金属㈱	フェロニッケルの製錬 およびスラグ製品の製造	031-8617	八戸市大字河原木字遠山新田5-2	0178-47-7531	代表取締役社長	岩　舘　一　夫	資源・技術開発プロジェクト部　部長補佐	三　浦　一　彦
28	㈱高橋製作所	クレーン・コンベヤー等の搬送設備、鋼構造物、各種産業機械・プラントの設計・製作・据付・メンテナンス	039-1161	八戸市大字河原木 字浜名谷地76-344	0178-28-3035	代表取締役社長	田　中　大　志	取締役　総務部長	掛　端　裕　人
29	多摩川ハイテック㈱	アルミ鋳造/機械加工/板金加工/焼付塗装/サーボモータ組立	039-0811	三戸郡南部町大字法師岡 字仁右エ門山3-23	0178-60-1140	代表取締役	坂　下　博　康	管理部　課長	杣　木　大　輔
30	東京鐵鋼㈱ 生産本部 八戸工場	鉄筋コンクリート用棒鋼の生産、販売 産業廃棄物処理	039-1161	八戸市大字河原木字海岸4-11	0178-28-9191	取締役上席執行役員生産本部長	武　笠　達　也	業務課　課長	種　市　健　吉

No.	所属団体名	主な事業内容	〒	住　　所	電話番号	代　　表　　者		担　　当　　者	
31	東北化学薬品㈱八戸支店	化学関連専門商社 （化学工業薬品、試験研究用材料、 食品添加物、食品加工機械、 農業資材、臨床検査機器試薬）	031-0071	八戸市沼館1-15-3	0178-43-9236	代表取締役	東　康之	八戸支店長	杉山秀勝
32	東北三吉工業㈱	精密板金加工、大型製缶加工、真空装置 生産ライン組立、塗装、ワイヤーカット 超微細加工	039-1524	三戸郡五戸町大字豊間 内字地蔵平1-622	0178-62-2545	代表取締役	沼沢裕公	顧問	関口力
33	東北山田車体工業㈱	自動車車体の製造及び修理 トレーラの製造及び修理 クレーン取付け及び車両整備 ディーゼル車用 高品質 尿素水の製造・販売、荷役運搬器の製造	039-1524	三戸郡五戸町大字豊間 内字地蔵平1-750	0178-61-1111 050-3532-3571	代表取締役社長	小笠原　秀司	営業設計購買販売部 課長代理	坂本悟
34	東北容器工業㈱	段ボール箱・ポリエチレン袋の製造販売、包装関連機器のシステム設計・販売・メンテナンス、物流機器・サニタリー商品の販売、その他、包装関連資材全般の販売	039-2245	八戸市北インター工業団地4-2-7	0178-21-1404	代表取締役社長	辻　啓史	営業部開発グループ課長	堺智紀
35	㈲中ペン塗装店	塗装業 （一般塗装工事、磁性建材の開発）	031-0801	八戸市小中野5-7-1	0178-22-1828	代表取締役社長	中村知行	代表取締役会長 （研究会会計監事）	中村昭則
36	ハード工業㈲	生産設備補修・製造・研究開発	039-2245	八戸市北インター工業団地5丁目2-26	0178-38-7300	代表取締役社長	山形虎雄	代表取締役社長	山形虎雄
37	㈱八戸インテリジェントプラザ	研究開発、研究開発支援、人材育成、調査受託、情報提供、交流促進	039-2245	八戸市北インター工業団地1-4-43	0178-21-2111	代表取締役社長	熊谷雄一	副所長	林崎公彦
38	八戸缶詰㈱	食品事業、食品製造・販売支援	031-0822	八戸市白銀町三島下92	0178-34-3131	代表取締役社長	野田一夫	総務部長	澤谷人史
39	八戸製錬㈱ 八戸製錬所	非鉄金属製造業	039-1161	八戸市大字河原木字浜名谷地76	0178-28-6526	代表取締役社長	八丁和也	製錬課　課長	榎本潮
40	八戸セメント㈱	セメント製造	031-0813	八戸市大字新井田字下鷹待場7-1	0178-33-0111	代表取締役社長	明代知也	取締役総務部長	三宅隆文
41	㈱八戸鉄工所	鉄骨構造物・製缶物・各種プラント設計製作、機械加工	039-1161	八戸市大字河原木字北沼15-7	0178-28-3830	代表取締役社長	田村嘉章	総務部副部長	奥沢明弘
42	㈲半田研究所	水産/水産加工・総合技術監理	039-1103	八戸市長苗代1-13-8	0178-21-6141	代表取締役	半田敏久	代表取締役	半田敏久
43	㈱ビジネスサービス八戸支店	システム全般のコンサル/開発・構築/機器・ソフト販売・保守、プロバイダ事業、ＰＣショップ、携帯電話販売	031-0022	八戸市大字糠塚字下道16	0178-46-2083	支店長	鈴木康史	営業Ｇ	一ノ渡弘光
44	富士通japan㈱八戸支店	通信システム、情報処理システム・電子デバイスの製造・販売、それらに関するサービスの提供	031-0032	八戸市大字三日町2 青銀・明治安田ビル6F	0178-45-3301	支店長	伊藤　浩	支店長	伊藤　浩
45	船越エンジニア工業㈱	配管・プラント設備設計施工（油・薬品等の廃水処理プラント・搬送機・ランク等）	039-2246	八戸市桔梗野工業団地2-8-30	0178-20-1011	代表取締役	船越幸子	常務取締役	船越博明
46	北辰工業㈱	土木・電気・管工事、機械器具設置工事、熱絶縁工事	039-1165	八戸市石堂4-15-8	0178-51-6291	代表取締役	田島理成	本社工場工場長	板橋孝治
47	三沢エンジニアリング㈱	精密角度センサーと 小型精密モーターの製造	033-0036	三沢市南町3-31-2779	0176-57-4171	代表取締役社長	平内康秀	専務取締役	平内薫
48	三菱製紙㈱八戸工場	パルプ・紙の製造・加工・販売	039-1197	八戸市大字河原木字青森谷地	0178-29-2090	ミッション・エグゼクティブ八戸工場長	石黒秀明	八戸開発室　室長	五十嵐宏二
49	㈱ミナミ　八戸工場	プリント基板実装/電子機器設計製造/福祉機器開発	039-2241	八戸市市川町桔梗野上19-82	0178-38-1565	専務取締役	松下武志	専務取締役	松下武志
50	三八五自動車整備工業㈱	車検、板金修理、レンタカー、廃車買取、中古部品買取	039-1103	八戸市大字長苗代字化石85	0178-27-2335	代表取締役社長	小野武司	総務部長	泉山幸男
51	㈱ライケット	米穀の販売・搗精・集荷・仲買・出荷・加工、農業資材の販売、肥料、農薬	031-0055	八戸市荒町22	0178-28-2750	代表取締役	河村泰輔	代表取締役	河村泰輔

【賛助会員】

1	赤垣　友治	八戸工業高等専門学校　名誉教授
2	佐藤　勝俊	八戸工業高等専門学校　名誉教授

【委　員】

No.	所属団体名	主な事業内容	〒	住　　所	電話番号	代　　表　　者	委　　員		
[学・高等学校]									
1	北里大学獣医学部		034-0021	十和田市東23番町35-1	0176-23-4371	学部長　岡　野　昇　三	動物資源科学科　学科長 教授	向　井　孝　夫	正
2							教授	森　　淳	副
3	八戸工業高等専門学校		039-1104	八戸市田面木字上野平16-1	0178-27-7267	校長　土　屋　範　芳	産業システム工学科 准教授 (地域テクノセンター委員)	森　大祐	正
4					0178-27-7291		産業システム工学科 教授 (地域テクノセンター長)	南　將　人	副
5	八戸工業大学		031-8501	八戸市大字妙字大開88-1	0178-25-3111	学長　船　﨑　健　一	名誉教授	関　秀　廣	
6							工学部工学科　教授 工学科長・学科長補佐	石　山　　武	正
7							工学部工学科 教授	信　山　克　義	副
8	八戸工業大学第一高等学校		031-0822	八戸市白銀町字右岩淵通7-10	0178-33-5121	校長　遠　藤　　剛	校長	遠　藤　　剛	
9	八戸学院大学		031-8588	八戸市美保野13-98	0178-25-2711	学長　小　林　　眞	地域経営学部地域経営学科 教授	田　村　正　文	正
10							健康医療学部人間健康学科 教授	井　元　紀　子	副
11	弘前大学		036-8560	弘前市文京町1	0172-39-3991	学長　福　田　眞　作	社会連携部 地域連携コーディネーター	上　平　好　弘	
12	八戸サテライト		031-8511	八戸市堀端町2-3 八戸商工会館1階	0178-43-1600		地域連携コーディネーター	大　沢　英　教	
[行政]									
	青森県								
13	青森県三八農林水産事務所		039-1101	八戸市大字尻内町字鴨田7	0178-27-5111(219)	所長　大和山　真一	所長	大和山　真一	
	八戸市								
14	商工労働まちづくり部商工課		031-8686	八戸市内丸1-1-1	0178-43-9242	商工課長　市　川　国　昭	商工課長	市　川　国　昭	
15	商工労働まちづくり部産業労政課		031-8686	八戸市内丸1-1-1	0178-43-2111	産業労政課長　石　塚　俊　哉	産業労政課長	石　塚　俊　哉	
16	農林水産部農業経営振興センター		039-1101	八戸市大字尻内町字毛合清水29	0178-27-9163	所長　寺　沢　智　幸	所長	寺　沢　智　幸	
17	農林水産部水産事務所		031-0822	八戸市大字白銀町字三島下101	0178-33-2115	農林水産部理事兼 水産事務所長　茨　島　　隆	農林水産部理事兼 水産事務所長	茨　島　　隆	
18	市民環境部環境政策課		031-8686	八戸市内丸1-1-1	0178-43-9265	市民環境部次長兼 環境政策課長　早　狩　　仁	市民環境部次長兼 環境政策課長	早　狩　　仁	
19	都市整備部下水道業務課		031-0801	八戸市江陽3-1-111	0178-44-8259	下水道事務所副所長兼下水道業務課長　田　中　瑞　穂	下水道事務所副所長兼下水道業務課長	田　中　瑞　穂	
[公設試験研究機関]									
	(地独)青森県産業技術センター								
20	食品総合研究所		031-0831	八戸市築港街2丁目10	0178-33-1347	所長　白　取　尚　実	所長	白　取　尚　実	
21	農産物加工研究所		033-0071	上北郡六戸町大字犬落瀬字柳沢91	0176-53-1315	所長　細　田　洋　一	所長	細　田　洋　一	
22	八戸工業研究所		039-2245	八戸市北インター工業団地1-4-43	0178-21-2100	所長　髙　柳　和　弘	所長	髙　柳　和　弘	
23	野菜研究所		033-0071	上北郡六戸町大字犬落瀬字柳沢91	0176-53-7171	所長　木　下　　均	所長	木　下　　均	
[支援機関など]									
24	富沢特許事務所		031-0073	八戸市売市2丁目7-12-3	0178-72-4355	所長 弁理士　富　沢　知　成	所長 弁理士	富　沢　知　成	
25	八戸商工会議所		031-0076	八戸市大字堀端町2-3	0178-43-5111	会頭　武　輪　俊　彦	中小企業相談所長兼経営支援1課　課長	北　山　和　久	
26	八戸地域社会研究会		031-0003	八戸市吹上3-2-13	090-5230-8969	会長　髙　橋　俊　行	会長	髙　橋　俊　行	
[金融機関]									
27	㈱商工組合中央金庫　八戸支店		031-0086	八戸市八日町43-1	0178-45-8811	八戸支店長　根　岸　　寛	次長	犬　塚　功　二	
28	㈱日本政策金融公庫　八戸支店		031-0074	八戸市馬場町1-2	0178-22-6274	八戸支店長　加　藤　慶　文	八戸支店長	加　藤　慶　文	
29	青い森信用金庫		031-0086	八戸市八日町18	0178-38-8863	理事長　益　子　政　士	営業本部　部付部長	杉　森　俊　仙	
[事務局]									
	(公財)八戸地域高度技術振興センター	人材育成支援、産学官連携支援、 研究開発支援、情報提供	039-2245	八戸市北インター工業団地1-4-43	0178-21-2131	理事長　熊　谷　雄　一	専務理事兼事務局長	松　坂　洋　司	
							事務局次長	関　　マ　キ	
							事務局主幹	中　田　純一郎	
							事務局主事	金　田　明　子	
							事務局主事	吉　田　友　美	

編集後記

令和６年度も高度技術利用研究会のさまざまな活動において、会員・委員の皆様には多大なるご協力を賜りました。改めまして、心より御礼申し上げます。

６年度は、５年ぶりとなる１泊２日の企業視察会を実施することができました。復興が進む福島県・宮城県の沿岸地域に加え、東北地区の学生人気ナンバーワン企業であるアイリスオーヤマの基幹工場「角田Ｉ.Ｔ.Ｐ」を訪問。参加された皆様からは大変ご好評をいただき、また参加が叶わなかった方々からも「来年もぜひ」というお声を頂戴し、ありがたく思っております。

なお７年度は、秋に岩手県北上地域の企業３社を対象とした日帰り視察を計画しております。地域企業の皆様のビジネスに新たな視点やヒントをもたらせるような、魅力ある企画を鋭意準備中ですのでご期待ください。

昨今、当研究会に限らず多くの団体でセミナー等の参加者確保が課題となっているという声を耳にします。同じようなテーマや内容が重なる傾向も否めませんが、私ども事務局としては日頃から幅広くアンテナを張り、「これはぜひ参加してみたい」と思っていただけるような魅力ある企画づくりに努めてまいります。

引き続きのご支援、ご参加を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

※ 会報誌(冊子版)をご希望の際は、事務局にお知らせ下さい。

事務局：(公財)八戸地域高度技術振興センター
電話：0178-21-2131　FAX：0178-21-2119
URL：http://www.hachinohe-ip.co.jp/index2.htm
Mail：hc21@hachinohe-ip.co.jp

発行日：令和７年７月１１日